

文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*
本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

Inter BEEに合わせて開催された本誌主催イベント「被災3県民放7局報道・映像システム担当パネル討論」では、被災当日から始まった各放送局のリアルな激動ぶりをうかがうことができた。反面、終盤で司会の吉井編集長が突っ込んだとおり、「データ放送に関する取り組みがほとんど聞かれなかった」のが残念。震災に強いとの触れ込みがあったワンセグの再起を促したい。それではチェック、スタート。

Inter BEE2011会場から

総務省ホワイトスペース推進会議ブースで エリアワンセグをチェック

災地の避難所に 「エリアワンセグ」

毎年のように「来年こそ本免許」といわれながら、いまだ実証実験の続くエリアワンセグ。それこそ「震災時に普及していれば……」とは思いますが、今からでも遅くはないはず。「Inter BEE2011」会場から、エリアワンセグの動向を探ってみた。

訪れたのは総務省ホワイトスペース推進会議ブース。いわばエリアワンセグ関連の総本山であり、実験免許を受けた複数事業者が最近の取り組みについてそれぞれ紹介する合同ブースだ。

まず注目したのは、TBSが紹介していた「エリアワンセグ」。名称どおりワンセグではないが、テレビ画面を通じたピンポイント情報提供が可能となるシステムである。

実際の使用例としては、震災の避難所などにディスプレイとシステムを配置。在籍避難者の情報や支給品情報、地域の現状などを伝える、局地的デジタルサイネージのような利用法だ。データ放送を巧みに利用し、テレビリモコン操作で使用者ごとに必要な情報を呼び出せ

る点もいい。

コンテンツはディスプレイ付近のPCから打ち込み可能で、あえて技術担当者が張り付いている必要はない。システム自体も持ち運び可能なワンボックスタイプにまとめており、避難所間の移動も容易に行うことができそうだ。

ワンセグではないので良質な電波環境確保に多少の困難も予想されるが、緊急状態がひと段落した状態における有用性はかなり高いものがある。通常時もイベント会場などで運用できそうだが、そちらは放送波を使う意味が薄いのでどうでもいい。

交通機関関係は完成度に差

鹿児島中央駅で展開されているという駅構内向けエリアワンセグは、なぜかTwitterの投稿や県内のイベント情報を紹介。将来的には駅構内の商店情報などを取り上げるというが、正直、いまの段階で切り替えたほうがよい。あるいは時刻表でも新幹線の空席情報でもいいから、とにかく「駅構内のエリアワンセグ」という利点を活かしたコンテンツとすべきだろう。

なお、現状は鹿児島中央駅のみとなっている

が、最終的にはJR九州沿線の大型駅（おそらくは新幹線停車駅）で実施したいとのこと。地域ごとに空きチャンネルが違うので、移動後のスキャンが難しいだろうが、スケールメリットが生まれる展開には賛成だ。ならばなおのこと、駅に特化したコンテンツにしてほしい。

同じ交通機関関係でも、羽田空港で展開されている実証実験はより完成度が高い。羽田発の交通機関乗り換え情報や施設内店舗の情報など、空港利用者に必要なコンテンツを用意していた。

前年の展示で紹介していたSDマルチ編成による複数カ国語放送は、スキャン実施やチャンネル選択においてユーザ個々の端末操作能力に頼る部分が大きいため一旦頓挫。それでもあきらめたわけではなく、複数発信局を設けて地点ごとに言語を変えて放送する仕組みを模索しているようだ。

なお、羽田の場合は全面的にWiFiが利用できるため、データ放送から2次リンク（ケータイサイト）への誘導に強みがある。スマートフォンと2次リンクの相性は微妙だが、サービス展開の可能性を広げるものであることは確かだろう。

総務省は柔軟な対応を

出展していた複数事業者から「来年こそ本免許」という声が聞かれた。状況的には相当煮詰まっているようだが、むしろ「そろそろ本免許がいただけないと困る」というのが本音だろう。

「実験局免許のままでは商用化できず、ただ運用費だけがかさんでしまう。本免許となれば広告展開など収入の道が開けるだけに、早く本免許化していただきたい」（参加事業者）。2012年、果たして本免許は下りるのか。まだ議論が必要というのであれば、特例免許として商用化を認めるなどの対応がほしい。



TBSエリアワンセグ。コンテンツの中身、システム全体の完成度などはさすが



有用な情報でまとまった羽田空港エリアワンセグ